

令和7年度 五所川原地域住民懇談会① 案件・回答

開催日時：令和7年10月27日（月） 18時00分～19時20分

開催場所：コミュニティセンター七和

参加住民：12名

出席議員：和田祐治議員、秋田幸保議員

懇談テーマ：

未来へつなぎたい・守りたい地域の強みについて～2040年に向かって～

【今後の人団推移とまちづくりの理念について説明】（ふるさと未来戦略課長）

【意見等】

①テーマに関するもの

Q) 人口減少に伴って亡くなる方も増えていく中、墓はあるが管理できる人がいないという事例があり、墓地の維持に関して悩みを持つ方がいる。永代供養をしてもらう手もあるが、普通のお寺での永代供養には50～100万円くらい費用がかかる。市で、永代供養ができる合葬墓を作る計画はあるか。

A) 市長：合葬墓の設置については一時検討したことがあるのですが、当時は費用に見合う需要が少ないという結果となり、中断となりました。そんな中、民間の合葬墓が増えてきており、市内の例としては梅田地区に有志によって運営されている共同墓地（梅田共同墓地）があります。

市としては、このように民間の永代供養もできる合葬墓が増えていることから、現在はこれから市で設置するという判断はしていません。

Q) 人口減少によって学校の再編も出てきており、五所川原第二中学校がなくなるかもしれないという懸念がある。2040年頃までに学校再編がどうなるのか伺いたい。

A) 教育長：具体的まではお伝えできませんが、確実に学校数は減っていくと思います。

（学校再編の進め方について）

学校再編は「五所川原市立小学校中学校 適正規模・適正配置基本計画」に基づいて進めています。いっぺんに再編を行うことはできないので、段階的に進めていくためにまず「優先検討校」を決めて、それについて保護者や住民の皆さんと意見を交わしながら計画的に進めていく想定をしています。

このままいくと、令和8年度に市浦小・中学校の併置校の設置が完了した段階で、次の「優先検討校」の検討に着手することになります。そ

の検討結果を元に、様々な方々からご意見を聞きながら進めていければと思っています。

(優先検討校について)

小学校においては、複式学級（※1）の解消が大きな課題となっています。複式学級では教員が複数学年を行き来しながら授業を行わなければならず、直接授業を受けられる時間が少なくなってしまいます。

中学校においては、教員定数の基準（県で決定）が学級数に応じて決められています。それに伴い、学級数が少ないところでは教員の不足により、専門ではない教科を指導する免許外教科担任（※2）が出る可能性があります。

のことから、小学校は複式学級があるところ、中学校は学級数が少ないとところから、子どもたちが不利益を被る可能性があるとして、優先検討校の検討対象になっていくと思われます。（注：検討対象をどこにするかについては、現在は決まっていない。）

地域にとって学校が非常に大切なことは私自身よく分かっていますが、最終的には授業で子どもたちが不利益を受けるかどうかで判断していくみたいと思っています。

A) 市長：何かあれば事前に皆さんと話をして、意見を聞きながら進めていきますので、よろしくお願ひします。

（※1）複式学級…2つ以上の学年で構成される学級。1学級の中で所属する学年が異なる=授業内容が異なっている状態のため、教員は複数学年を行き来しながら授業をする必要がある。（文科省等ホームページより）

（※2）免許外教科担任制度…中学校、義務教育学校の後期課程、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の中学校部若しくは高等部において、当該学校の普通免許状を有する教員に他の教科を担当させることを特別に認める制度。（文科省ホームページより）

②テーマ以外のもの

Q) 高野文化センターについて、市ではなく自分たちで市民の寄付によって建てたものであり、皆さんからお金を集めて経営しているのだが、最近、大きい施設は要らないのではないかという話が出ている。

大きい施設をなくして、必要であれば各地域に小規模な施設を作つてはどうかと思う。高野の場合だと、消防の屯所が壊れてしまつて危険な状態なのだが、そ

れを直すついでに高野文化センターを壊して、小さい施設を立てられないかと思っている。

A) 総務部長：市では公共施設を集約化するために計画を立てて、それぞれの施設を効率よく使えるよう、効率的な配置を考えながら取り組んでいるところでした。高野以外のものも含めて、多くの施設について、今後無くす可能性は出てくると思います。

地域住民の皆さんで建てられたものの場合、市としては、市の施設でないものだと修繕等はできないため、直接手をかけることはできかねます。しかしながら、支援できることもあるかもしれませんので、今はっきりこうすると伝えることはできないのですが、ご相談しながら考えていけばと思っていますので、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

意見) 地域で、壊すためのお金を貯める努力をしています。その辺も念頭に置いて、ご検討いただければと思います。

Q) 公共施設の集約化について、市ではどのような方針を持っているか。できた時期などの条件が施設によって違うと思うが、そういった条件は関係なく集約化になるのか。

A) 総務部長：まず、コミュニティセンター七和は存続の予定でいます。また、市内の様々なところに公共施設を設置している中で、地区からの距離なども参考に、地域にとって必ずなくてはならないものは、地域住民の皆さんとのコミュニティの拠点として存続させるという方針を立てています。

A) 市長：小さなものを身近に作れるのが住民の方にとって一番良いということは承知していますが、行政としては次の世代に向けて、できる限り縮小を考えています。

施設はだんだん使われなくなっていますが、次の世代になれば使われるようになる、ということはありません。ほとんど使用していないのに維持管理の費用がかかる状態のまま施設が残っていると、次世代にとって負担になってしまいます。

住民の方々と話をしながら、地域の中で施設をどう有効に使うか、何を残して何を断念するかと一緒に考えていくことが必要だと思っています。

A) 教育長：補足としてご紹介しますが、市内の施設を有効に使っていくために学校開放事業を実施しており、授業等で子どもたちが使っていない時間帯であれば、申請をすればご利用いただけるようにしています。

このように、様々な活動の場として学校を活用できるようにもなっていますので、利用希望があれば、教育委員会にご相談ください。

Q) 梵珠山について、近年舗装をしてもらったのだが、松倉神社の登山道の1kmくらい前で止まってしまった。進捗を伺いたい。

A) 市長：土木課に確認します。

Q) 狼野長根公園のアカマツが、昨年の大雪で多数折れている。8月くらいまでに片付ける予定と聞いていたが、進んでいない様子だったので、進捗を伺いたい。整備されれば人が来ると思うので、早めに進めてもらえればと思う。

A) 市長：都市・交通課に確認します。

Q) 簡易水道について、管やポンプが古くなって傷み、修理にも費用がかかることから解散した簡易水道組合がある。本管以外のところを市で整備したり、家の近くまで本管を通したりといった対応をしてほしい。

A) 市長：上下水道部に確認します。

要望) りんご畠の道路について、舗装まではいかなくても、何年かに1回新しい砂利を入れるなどいいので、市で対応してもらいたい。

③その他

Q) 小学校の部活動において、家族の送迎が必須だと、送迎ができない家の子どもが諦めてしまう事例が多い。送迎を理由に部活動ができなくなることがないよう、手立てがほしい。

A) 教育総務課：小学校の部活動は、指導する教員の多忙化など多くの課題を抱えていることから、五所川原市では、令和3年度までに学校の部活動から地域の方々が中心となる地域クラブへ移行しておりますので、送迎に関しては各クラブの運営方法によることとなっております。

Q) 夏休み、冬休み中も部活送迎バスを出して欲しい。

A) 教育総務課：中学校については、現在、登下校の送迎バスの一環で、18時に部活動を行っている生徒向けの便を運行しております。ただ、あくまで登下校の送迎バスとして運行しているため、夏休み・冬休みといった登下校がない日に市内全中学校の全部活動の送迎を行うことは、多額の費用が発生することから、当市の財政状況を踏まえると難しい状況となっております。

Q) 働地にこそ、「ごしょくる」の送迎が必要だと思う。

A) 教育総務課：「ごしょくる」は、9月末のELM120円バス廃線を受け再編したものとなっていることから、運行区間も同バスにならったものとなっております。